

ウィーン留学新聞

発行者 幸永
野村 効
2015年
6月16日

Deutschkurs 開講

過去最高人数の参加者！

平均年齢30歳？！
レベルの高さに
圧倒される！



大学の校舎

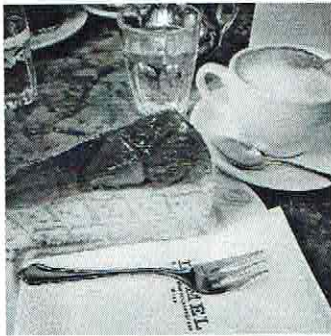
今年もウィーン大学にて一か月のドイツ語コースが開講された。今回は去年よりも多くの参加者が集まり、キャンパスには多くの日本人が見られた。中央大学からは2人の生徒が参加した。このコースは一日目にクラス分けのテストを行い、二日目から授業が始まった。そして最後の週には終了テストを修了書をもって合格すれば修了書ももらうことができる。

レベルは一番下からA1 A2, B1...といったように上がっていく。一番上はC2である。今回のクラスはA2/2であったが何と平均年齢が30歳である。平均身長も高くおそらく170cm程度であった。出身国は様々であり、ケニア、ロシア、セルビアやチェコなどである。働いている人がほとんどで、学ぶことに対する欲がものすごく強い。日本における大学の学習態度で行くところと置いてけぼりを食らうであろう。毎日の予習・復習は当たり前であり、大量の宿題も。しつかりチェックをするので忘れられた大変なことになる。かなり真面目に取り組まないと辛い。



「あらゆる新しいものに対する

最良の教養の場は常にカフェであった」



シュテファン・ツベルク

ウィーンとカフェのつながりは深い。多くの著名な作家などがウィーンのカフェに足しげく通い、思慮にふけていたそうだ。その文化が残っているのだから。ウィーンのカフェには新聞や雑誌を置いてあるところが多い。そしてコーヒー杯で何時間も居続ける。そしてBGMは流れていない。人々の会話がBGMとなるため、必要がないのだそう。左の写真は王室御用達のカフェDE MELEである。Hohburgの目の前である。ケーキとミルクコーヒーとMilangeと水が定番。水はコーヒーを頼むと必ず付くのである。他にも有名なカフェだと、ザツハートルテの生まれたカフェであるCafe Zacher等たくさんある。

自分のお気に入りのカフェを探してみるのもいいかもしれない。また Cafe Zacher と Cafe Demel のザツハートルテの食べ比べも楽しい。甘いものが好きな人は Cafe Zacher のザツハートルテを、甘さ控えめが好きなのは Cafe Demel を好む傾向がある。さてあなたはどちらが好きだろうか。

編集後記
ウィーンに行くのはこれで二回目であったので安心して留学へ望めた。引率役も良い、貴重な経験ができた。

そして九月からは半年間ウィーンにお世話になる。きつとまだ私の知らないウィーンの顔がまた見れることだろう。そして次こそはきつとドイツに行かねば。(ドイツ語を学ぶものとしてドイツに行っていないのはまずいだろうし。)今回留学にあたっては新井教授と両親に感謝しなければならぬ。そして斉藤教授にも感謝！留学に行くことを許してくれて、応援してくれてありがとう。

多くの人に支えられて、多くのことを学べた留学であった。

ハンガリーを訪ねる

恐怖の王宮迷路…
いまだ謎が眠る暗闇の中へ！

ハンガリーと聞いてみなさんは何を思い浮かべるのだろうか？ハンガリーワインか？それとも温泉？多くの歴史の建造物と劇場があるハンガリーはウィーンとの結びつきも強い。オーストリアの王妃の名がつけられた橋もある。そんなハンガリーであるが私が一番初めに思いついたのは「ドラキュラ」である。実はドラキュラのモデルはハンガリーの王ウラド二世である。残酷な行為で「串刺し公」と呼ばれた彼。私が訪れた王宮地下迷路では真つ暗闇の中にこのことに関する説明と展示がある。



何とも不気味である。蟻人形がずらりと並び、よく見ると墓の後まである。どうやらかつて実際にその用途で使われていたようで、現在も調査中であるようだ。少しリアルなお化け屋敷といったようなところであろうか。